

# 湯田川温泉リハビリテーション病院経営強化プラン概要版

## 第1章 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院経営強化プランの策定

### 1 プラン策定の趣旨

地域医療を取り巻く環境は、医師の偏在化や医療従事者不足、急速な医療需要の変化への対応など今後ますます厳しくなることが見込まれます。そうしたことを背景に国では「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を策定し、それに基づく「公立病院経営強化プラン」の策定を地方公共団体に要請しました。

この経営強化プランはその要請に応え、直面する課題に対応し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため策定したものです。

### 2 計画の位置付け及び計画期間

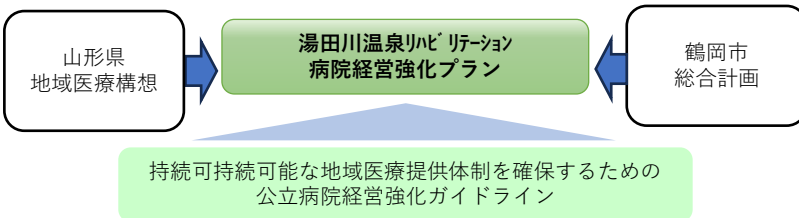
- この計画は、経営強化ガイドラインに基づく「公立病院経営強化プラン」に位置付けます。
- 計画期間は、令和6年度から令和9年度までの4か年とします。

### 3 計画の推進、点検・評価・公表・見直し

- この計画は、毎年度事業計画を策定し、推進します。
- 取組の達成状況について指定管理者による点検・評価に基づき検証を行いホームページなどで公表します。
- 必要に応じ経営強化プランの見直しを行います。

#### ○湯田川リハビリテーション病院経営強化プラン策定について

策定にあたっては、公立病院経営強化ガイドラインに基づき、山形県地域医療構想、鶴岡市総合計画を考慮したものとしています。



### 4 医療を取り巻く情勢と湯田川温泉リハビリテーション病院の現状・課題

#### (1) 医療を取り巻く情勢

国では、団塊世代が75歳を迎える2025年や団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年の課題として、社会保障費の増大、労働人口の不足の懸念を示しています。都道府県では、第8次医療計画の策定作業の中で各医療機関の対応方針の策定や検証、見直しが求められており、公立病院も対応が求められています。

#### (2) 湯田川温泉リハビリテーション病院の現状・課題

##### ①医療従事者の確保

湯田川温泉リハビリテーション病院の医師は、高齢化が進んでいる状況にあり、医師をはじめとした看護師、薬剤師、技士等医療従事者の確保が課題となっています。

##### ②施設・設備の老朽化

現病院は、国立療養所湯田川病院として昭和52年7月に開設されて以降、病院運営を継続するため、建物の保全計画をもとに平成29年度から令和2年度に改修事業を行いました。

今後は、施設の老朽化に伴う改修や設備更新に対応するとともに、地域医療構想を踏まえて、地域において担うべき役割や診療機能を果たすため、施設・設備の整備について検討する必要があります。

## 第2章 経営強化ガイドラインに基づく事項

### 1 役割・機能の最適化と連携の強化

#### (1) 地域医療構想等を踏まえた湯田川温泉リハビリテーション病院の果たすべき役割・機能

地域医療構想は、2025年の医療需要に基づき効率的で質の高い医療提供体制を構築することを目的として都道府県が策定しています。同構想の実現において、庄内構想区域全体として病床機能の最適化を目指す必要があります。

- 回復期におけるリハビリテーション医療と長期療養を要する患者の受入れを行う慢性期医療の提供
- 地域医療構想を踏まえ、近隣の療養病院や患者の動向を見据えた病床機能の適切な選択と安定した運用

#### ○医療機能別病床数の見込み

単位：床

		R 5	R 7	R 9
療養病床	回復期	120	120	120

#### (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

急性期治療後の受入れをはじめとする地域包括ケアシステムを支える役割を果たし、病院機能の充実を図ります。

- 急性期治療を経過した患者や在宅、施設での療養中にリハビリが必要となった患者、レスパイト入院希望の患者の受入れ
- 回復期におけるリハビリテーション医療の入院患者の在宅復帰に向けた支援

#### (3) 機能分化・連携強化

地域の中で各公立病院が担うべき役割や機能を改めて見直し、明確化・最適化した上で病院間の連携を強化する必要があります。

- 急性期病院の後方支援病院として、回復期及び慢性期医療の提供
- 退院時や転院時における医療情報ネットワークなどを活用した地域の医療関係機関との連携強化

#### (4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

医療機能・医療の質に係るものの数値目標として在宅復帰率を設定

#### ○在宅復帰率（％）

R 4 (実績)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
77.8	70.0以上	70.0以上	70.0以上	70.0以上	70.0以上

#### (5) 一般会計負担の考え方

不採算医療等の経費について総務省の繰出基準等の基本的な考え方に沿った負担を基本とします。

#### (6) 住民の理解のための取組

医療提供体制や各種取組などについて、住民の更なる認知度向上につながる取組を推進します。

- 広報誌、病院ホームページ、SNSを通じた積極的な発信
- 情報発信等のあり方についての検討

## 2 医師・看護師等の確保と働き方改革

### (1) 医師・看護師等の確保

医師の高齢化が大きな課題となっており、看護師、薬剤師等も含め医療従事者の確保を推進します。

- ・民間人材紹介サービスの効率的な活用
- ・地域の医療機関からの医師の派遣受入れ
- ・看護師等の医療従事者をめざす学生の実習の積極的な受入れ
- ・教育研修や勤務環境の充実による人材の確保、定着

### (2) 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保

- ・荘内病院臨床研修プログラム協力施設としての受入体制と地域医療研修の充実

### (3) 医師の働き方改革への対応

- ・宿日直業務体制の見直し
- ・業務分担の見直しによる医師の業務負担の軽減

## 3 経営形態の見直し

平成18年度から指定管理者制度を導入しています。現在の経営形態は、医療提供体制を確保し、地域住民が安心できる医療を提供できることから引き続き同方式による経営形態を維持します。

## 4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の経験を通し、第8次山形県保健医療計画に「新興感染症発生・まん延時における医療」が盛り込まれることを踏まえ、感染拡大時に必要な機能強化に取り組みます。

## 5 施設・設備の最適化

### (1) 施設・設備の適正管理と整備費の抑制

湯田川温泉リハビリテーション病院の現建物は、昭和52年に建設され、老朽化に伴う改修や設備更新が必要であることから、病院の施設管理の効率化と長寿命化を図ります。

- ・老朽化にともなう改修や設備更新への対応
- ・計画的な更新による経費負担の平準化

### (2) デジタル化への対応

医療分野でのデジタル化の取組は、患者サービスの向上や業務効率化などにおいて重要であることから、積極的に推進します。

- ・マイナンバーカードの保険証利用促進のための周知
- ・情報セキュリティ対策の取組

## 6 経営の効率化等（経営指標に係る目標数値）

計画期間最終年度の令和9年度において経常収支の黒字化（経常収支比率100%以上）を目指します。

### ①収支改善に係るもの

指標 \ 年度	R4 (実績)	R5	R6	R7	R8	R9
経常収支比率 (%)	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	100.0
医業収支比率 (%)	96.7	94.0	94.1	94.1	94.5	94.9
修正医業収支比率 (%)	96.7	94.0	94.1	94.1	94.5	94.9

### ②収入確保に係るもの

指標 \ 年度	R4 (実績)	R5	R6	R7	R8	R9
1日当たり入院患者数 (人)	95.3	101.8	103.5	103.5	103.5	103.5
1日当たり外来患者数 (人)	28.3	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0
病床利用率 (%)	79.4	84.8	86.3	86.3	86.3	86.3